

支援金事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2020年5月8日
事業ID:2019-A025-008
事業名:大阪府箕面市の第三の居場所(A)における
利用児童向け体験活動の提供、イベントの実施
団体名:特定非営利法人
トイボックス
代表者名:栗田拓 印
TEL:050-3733-5544
事業完了日:2020年3月31日

1.事業目標の達成状況:

【申請時の目標】

- ① 動物飼育体験型学習の実施
- ② ヨット乗船体験の実施
- ③ アウトリーチクラシックコンサートの実施
- ④ 図書館の実施

2.事業内容詳細:

- ① 鳥取県の牧場において、馬や牛の世話、乗馬を体験する
- ② ヨットセーリングを体験する
- ③ 拠点にクラシックカルテットを招き、コンサート鑑賞、楽器体験をする
- ④ 活字に触れる機会を提供するため、さまざまなジャンルの書籍を購入、環境を整備する

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

- ① 命の尊さを学ぶ体験を通して、初めてのものに挑戦する気持ちと、思いやりの心を育む
- ② ヨットの乗船体験から、船の内部の構造やヨット(帆)の仕組みを学ぶ
- ③ 子どもたちにクラシック音楽の生演奏を聴く機会を提供する。また、保護者も招待し、共に音楽を楽しみながらコミュニケーションを深め、新たな関係構築を図り、より良い生育環境の実現を目指す
- ④ さまざまなジャンルの書籍を揃え、子どもたちに豊富な体験の機会を提供する「わくわくたいむ」と連動することで、興味関心の幅をさらに広げ、読書週間の定着を目指す

【目標の達成状況】

- ① 動物飼育体験型学習の実施(鳥取県)

みのお拠点でこれまで取り組んできたさまざまな活動を通して、拠点に通う子どもたちにとって動物との触れ合い方や生き物の扱い方を体験する機会が少ないことを感じ、実際に牧場でのお世話や乗馬体験を通して、命の尊さを知る経験になればと1泊2日のファームステイを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、子どもたち、ご家族の安全を第一に考え、やむなく中止の判断をした。

旅行は中止となったが、それまでの「わくわくたいむ」の時間を使って、動物についての理解を深めるなど、そこに至るまでのプログラムは有意義なものとなった。

- ② ヨット乗船体験の実施

実施日：2019年5月19日(日)

行き先：兵庫県西宮市 甲子園ヨットハーバー

・ヨットセーリング体験

・浜辺の公園にて水鉄砲大会「スプラッシュフェスタ」を開催

交通手段：貸し切りバス

参加人数：子ども 12名

昨年度に引き続き、甲子園ヨットハーバーの一文字ヨットクラブの方々にお招きいただき、ヨットセーリング体験を実施することができた。子どもたちはとても楽しみにしており、初夏の気持ち良い気候の中、屋外でたっぷり遊ぶことができ、満足そうにしていた。

昨年伺った際は、まだまだ居場所に通り始めたばかりの子どもも多く、はじめての課外活動ということで落ち着かない場面もあったが、今年度は2年目となった子どもたちを中心に、成長した姿を見せることができ、ヨットクラブの皆さんからも「子どもたちの様子が変わったね」「しっかり挨拶やお礼も言えるようになったね」と嬉しいお言葉をいただくことができた。

ヨットセーリングの後は、近くの公園に移動し、スタッフの企画した「スプラッシュフェスタ」を行った。子どもたちは水鉄砲が大好きなので、ぜひ思い切りやらせてあげられる場をつくってあげたいと、今回遠足の1プログラムとして組み込むこととなった。

外でびしょぬれになりながらの水鉄砲バトルに子どもたちは大喜び。大人チーム対子どもチームという設定で実施したところ、子どもたちが自発的に「力合わせよう！」「大人に負けるな！」と声をかけ合い一致団結する場面があり、課外活動でこそ得られる体験があるということを実感するイベントとなった。

写真 (左)ヨットセーリング時の様子 / (右)スプラッシュフェスタの様子



③ アウトリーチクラシックコンサートの実施

実施日：2019年12月20日(金)

場所：市の開放教室(居場所に隣接)をお借りして実施

参加人数：子ども 14名 保護者 3名(未就学児 3名)

子どもたちにプロの生演奏を体感してほしいという目的で、居場所にクラシックカルテットをお招きし、クリスマスコンサートを開いた。みんな音楽や楽器が好きで、普段から学校での音楽イベントの話をして

くれる子も多い。今回は生の音楽に触れることに加えて、「自分たちのために、演奏隊が来てくれる」という特別な体験を通して、そこに至るまでの過程を知るなど、自然と感謝の気持ちをもつことができるような工夫を行った。

演奏会当日までの「わくわくたいむ」の中で、楽器のことも知ったり、鑑賞マナーについて学んだりするプログラムを実施。子どもたちは「こんなに大きな楽器なんだ」「こんな音が出るんだ」と驚きながら、興味深く取り組んでいた。

写真 (左)弦楽四重奏について知るわくわくたいむ / (右)ツリーの飾り付け



また、来てくださる演奏隊の皆さんを歓迎する気持ちを自然に育めたら、という目的で、ウェルカムボードや当日渡す花束をみんなで作成した。工作が好きな子どもたちはそれぞれ工夫しながら楽しんで準備をしていた。

写真 演奏隊の皆さんを迎える準備をする子どもたち



いよいよ迎えたコンサート当日。子どもたちはしっかりと演奏会マナーを意識しながらも、楽しい曲では手拍子をし、ワークショップでは積極的に楽器に触れ、とてもいい雰囲気ので終えることができた。

写真 コンサート当日の様子



④ わくわく図書館の設置
 展示エリア、ポップの作成
 書籍(104冊)の購入

子どもたちに豊富な読書の機会を提供するため、図書エリアの充実を図った。本の選定基準を「市の図書館での貸し出しが難しいもの」「家庭で購入しにくいもの」とし、児童書に限らず評価の高い作品や、大きな図鑑、わくわくたいむの体験学習と連動し子どもたちの興味・関心を深められるような書籍を多数導入した。

また、ただ本棚に並べるだけでなく、展示エリアを充実させ、子どもたちが手に取りやすい工夫を施した。このエリアを設置して以来、子どもたちが集まり本を手にする機会が増加した。スタッフがおすすめ図書を紹介するポップを設置し、面出しする本も週ごとに入れ替えるなど常に真新しい見栄えを保つことを心がけ運用している。以前も読み聞かせや好きな本を選んで読む時間を設けることはあったが、「何を読めばいいかわからない」という子どもが多かった。そんな、本を読むことに抵抗があった子どもたちも、ちょっとした時間に本を手に取り真剣に読んでいる姿を見かけるようになり、効果を感じることができた。

写真 わくわく図書館

(左)子どもたちとしおり作りも行った (右)ポップをつけることで興味を引く



写真 図書館で出会いにくい本を中心に、児童書にこだわらず導入した



5.成功したこととその要因:

① 動物飼育体験型学習(鳥取)

新型コロナウイルスの影響により、旅行を実施することは出来なかったが、そこに至るまでの過程として、生きものについて知ることや、スタッフがこの旅行で体験してほしかったことを話し、伝える機会を持ったことで、中止になってしまったことも含め子どもたちにとってはひとつの経験として良い学びになった。

② ヨット乗船体験

前回と同じヨットクラブを利用させていただいたため、現場の状況、前年度の子どもたちの様子を踏まえ、さらに綿密な計画を立てることができたことが成功につながった。また、事前に挨拶や安全のために気を付けることなどをしっかりと子どもたちと確認して出かけたことで、より安全にプログラムを終えることができた。ヨットセーリングに加え、追加のアクティビティを用意したことで、体験が2回目の子どもたちも最後まで新鮮な気持ちで楽しむことができた。

③ アウトリーチクラシックコンサート

弊団体の別部署ですでにつながりのある演奏者の方々をお招きすることで、子どもたちに合わせた演奏内容の設定や細かな打ち合わせをスムーズに行うことができた。当日だけでなくそこに至るまでの過程や裏側を知ることができるプログラムを実施したことにより、音楽や芸術への理解を深めることができた。また普段コンサートへ足を運ぶことが難しい保護者の方々にもお喜びいただけた。

④ わくわく図書館

子どもたちが好きなもの、流行しているものだけでなく、図書館や学校で触れる機会が少ない書籍を広ジャンルにわたって導入したことで子どもたちの興味・関心を深めるツールとして質の高いブースを作ることができた。またディスプレイの仕方を工夫したことで子どもたちの興味を引き、読書のハードルを下げることに成功した。

6.失敗したこととその要因:

事業全体において、今年度もおおむね成功を収めることができた。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で実施が出来ないイベントがあった。旅行をメインに据えたイベントだったため、子どもたちに提供予定だった内容が大幅に削られることとなった。この状況を予測することは大変困難だが、こういった不測の事態で実施できない可能性があるということも視野に入れ、代替案をいくつか考えておくなど、できる限り子どもたちの貴重な機会が奪われることのないように計画していくことの大切さを感じ

た。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:

今回支援金事業は2年目ということで前年度の経験を活かし、さらにしっかりとした目的を持ってさまざまな体験を提供することが出来た。また新型ウィルスの世界的流行という危機的状況にあたり、本当に子どもたちにとって大切な「生き抜く力」とはどんなものなのかということを今一度深く考える必要があるということを感じた。

事業成果物:

【成果物の名称】事業完了報告書

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】